

2020年 8月31日

会員各位

佛教史学会

会長 草野 顕之

2020年度学術大会の中止について

拝啓

残暑の候、会員の皆さまには益々ご研鑽のこととお慶び申し上げます。平素は本会の活動に多大なご支援を賜わり、誠に有難うございます。

さて、当会の本年度学術大会につきまして、10月31日（土）に大谷大学を会場として開催を予定しておりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響が懸念されるため、会長と委員との間で慎重に協議を重ね、評議員からのご意見も承った結果、大変残念ではありますが、本年度の開催は中止することになりましたので、お知らせいたします。

当会では、委員会を中心に、実施に向けての準備を鋭意進めておりましたが、4月以降、会場校である大谷大学で入講を制限する措置がとられ、とくに学外への施設貸出の禁止や入試日程の変更などがなされたことにより、日程・会場が不確定な状態になりました。現在のところ、限定的に解除はされつつも、なお制限が継続されております。京都府下の大学では、秋学期以降も入構・施設使用の制限がかけられる可能性が高く、日程や会場の変更は不可能であると考えられます。また、代替措置として、オンラインでの実施などの可能性も検討を重ねましたが、通信トラブルへの対処など、万全を尽くした準備が現状の運営体制では困難であると判断し、本年度は開催を見送るという結論に至りました。

中止の決定に対してご意見もおありかと存じますが、来聴される方々の安全を第一に考えますと、中止するのが最善かと存じます。これまで本会への多大なご尽力を賜わっております会員の皆さまには、誠に恐縮ではありますが、何とぞご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

なお、総会については、報告・審議事項を紙面で郵送するなどの方法を委員会で模索しており、対面では行わない方向で調整していくと思われれます。また、今後の例会の実施につきましては、オンラインでの開催も視野に入れながら、活動が再開できるように少しずつ運営体制を整えていく所存です。皆さまにはご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆さまにおかれましては、時節柄、くれぐれもご自愛ください。

敬具